

新入学おめでとう！

八代市小・中・養護学校入学式
黄色い帽子贈呈式

4月8日と11日に八代市内の各小・中・養護学校で入学式が行われ、978人の新1年生が誕生しました。

松高小学校では、145人の新1年生を迎え入れました。少し大きめの真新しい制服を着た新1年生は、担任の先生から名前を呼ばれると、起立して「ハイッ！」という元気な返事をしていました。

また、各小学校の新1年生には、八代市交通安全協会から交通安全の願いとともに黄色い帽子が贈られ、帽子のキラキラした黄色は、新1年生の笑顔そのものでした。



交通事故に気をつけてね。

交通安全は地域から

交通安全を呼びかけるタッチ運動



ドライバーに安全運転を呼びかける母の会メンバー

4月11日、八代市厚生会館横の西幹線で、八代警察署や八代市交通指導員会、八代市交通安全母の会、39人による交通安全を呼びかけるタッチ運動が行われました。

小雨が降る中、「安全運転をお願いします」と停車したドライバーに声をかけながら、啓発チラシと一緒に交通安全の願いを込めて作られた楊枝入れなどが配られました。

100歳おめでとうございます

大山ハルエさん

3月25日、大山ハルエさん(植柳元町)が100歳を迎えました。

ハルエさんは、この日、近くに住んでいる家族が集まって100歳の誕生日をお祝いすると、「とても嬉しい」と顔をほころばせていました。



春から安全に通学しよう！

「新入学おめでとう！」
交通安全・地域安全親子大会



新1年生によるアトラクション

4月5日、やつしろハーモニーホールで、新1年生を対象に、交通安全と防犯意識を高め、通学時の事故や事件防止を図ることを目的に「新入学おめでとう！」交通安全・地域安全親子大会が開催され、約230人が集まりました。

式典では、藤永勝利八代地区交通安全協会長が「交通事故や犯罪に遭わないためにどうするか、親子で考えるいい機会にしてください」と挨拶しました。

会場では、新1年生によるアトラクションやクイズ、各種体験コーナーなどがありました。シートベルトコンビンサーで衝撃体験をした親子は、「時速5kmでもかなりの衝撃だった」とシートベルトの大切さを実感していました。

郷土の歴史を残したい

二見眼鏡橋群の清掃作業



赤松第一号眼鏡橋の周りの草を刈る会員たち

3月27日、二見町で、ボランティア団体元気会など10人が、八代市有形文化財指定の赤松第1号眼鏡橋を含めた6カ所の清掃作業を行いました。

これは、堂園眼鏡橋が壊れたのをきっかけに地元の歴史的建造物を将来に残したいとの思いから、二見郷土史愛好会が8年前に始めたものです。数年前からは、元気会が引き継いで行っています。

参加者は、「清掃を行うことで、橋が守られている。貴重な財産なので多くの人に知って欲しい」と話していました。



イ草風呂で肌もスベスベ
イ草の研究発表をする森田博士



地域に感謝の気持ちを伝えたい

テントや車椅子を寄付

3月31日、九鉄工業(株)から市へ、テント7張と車椅子6台、作業所作品展示ケース1台が贈られました。九鉄工業(株)は、九州新幹線新八代～鹿児島中央間の開業工事に携わった会社です。

テントを寄贈された金剛みどり保育園の元村博子園長は、「普段から多くのことに利用できるので大変ありがたい」と感謝の言葉を述べると、寺園貫一九鉄工業(株)熊本支店長は、「地域に貢献できて大変嬉しく思う。良いことをしました」と話しました。



目録を渡す寺園貫一(九鉄工業(株)熊本支店長(左))と富田助役

まちのわだい

イ草に新たな光

イ草の抗菌作用とイ草風呂

イ草によるレジオネラ菌に対する抗菌作用について研究している北九州市立大学の森田^{ひろし}洋農学博士が、4月5日、ヘルシーバル八代で「イ草にはレジオネラ菌に対する抗菌作用のほかに、高い保湿作用もある」との研究結果を発表しました。また、研究成果を活かしたイ草風呂のお披露目も行われました。

イ草の香りがする浴室からは「肌がスベスベになる」「体がよく温まる」などの利用客の声が聞かれました。イ草の需要拡大が急速に求められるなか、このイ草風呂が八代地方の新たな光になればと期待されています。

炎と黒煙の中から救助

消防活動等一般協力者表彰



表彰を受けた田方清秋さん(左)と角田博美さん

3月26日の午後3時ごろに発生した、高島町での民家火災で、適切で積極的な人命救助を行ったとして、田方清秋さん(高島町)と角田博美さん(松崎町)が4月11日、八代広域行政事務組合代表理事の中島市長と宮崎定美消防長から、表彰を受けました。

この火災は、老夫婦の自宅にあったストーブ周辺のチラシに火がつき、さらに灯油に引火し、火勢が増して延焼拡大。家から煙が出ていることに気が付いた2人が火災を察知し、夫婦を助け出しました。

「恐怖はあまりなく、ただ一生懸命だった」と口を揃えて語る2人の救助活動で、尊い生命が守られました。